がんを制する：高濃度ビタミンC点滴療法の多機能性と統合医療における実践的活用

点滴療法研究会マスターズクラブ 会長
鎌倉元氣クリニック 名誉院長

柳澤 厚生

Atsuo Yanagisawa

座長　田中 善

高濃度ビタミン C 点滴療法（IVC：Intravenous Vitamin C）は、統合医療におけるがん治療の選択肢として注目されており、その多様な作用機序が明らかになりつつあります。私自身、この療法を「がんと診断されたときの基本治療」として位置づけており、がん患者さんの QOL 向上と進行抑制を目的とした中核的アプローチと考えています。

ビタミン C は経口摂取では達し得ない高濃度を静脈投与によって実現することで、薬理学的な活性を発揮します。高濃度ビタミン C の抗腫瘍作用は、がん細胞に対するアポトーシス（計画的細胞死）の誘導、新生血管の阻害、抗炎症作用、ならびに活性酸素（ROS）の消去といった多面的なメカニズムに基づいており、これらが相乗的に働くことで、がんの増殖抑制や転移防止に寄与します。

近年では、IVC 療法に関する臨床試験や症例報告も増加しており、がん種によっては化学療法や放射線治療との併用によって相乗効果が期待されることも報告されています。特に正常細胞に対する毒性が低く、副作用の軽減や治療後の回復促進といった面でも有用性が示唆されています。
一方で、統合医療におけるがん患者さんの治療選択肢は多岐にわたり、サプリメント、食事療法、漢方薬、心理的サポート、代替療法などが挙げられます。これらをいかに個々の患者に適応させ、組み合わせていくかは、医師の臨床判断と経験に大きく依存します。その中で、IVC 療法は科学的根拠が徐々に整備されてきており、治療設計の中心に据える価値のある手法と考えます。

本講演では以下の点について解説いたします：
•高濃度ビタミン C の薬理学的特性と抗腫瘍メカニズム
•アポトーシス誘導、新生血管阻害、抗炎症、活性酸素除去などの多機能作用
•臨床試験および症例報告に基づく実践的知見
•他治療との併用における安全性と有効性の検討
•個別化医療における IVC 療法の位置づけと導入方法

本療法は標準治療の代替ではなく、補完的かつ相補的な戦略として患者中心の治療を可能にします。がん医療において、選択肢を広げつつ確かなエビデンスに基づく統合的アプローチを目指す方々にとって、有用な知見を提供いたします。

略歴

杏林大学医学部卒業、同大学院修了。 医学博士。米国ジェファーソン医科大学留学、杏林大学医学部内科助教授、同大保健学部救急救命学科教授を経て、2008 年より国際統合医療教育センター所長。また、神奈川県 鎌倉市にスピックサロン・メディカルクリニック(現・鎌倉元氣クリニック) を開設。
米国先端治療会議認定キレーション療法専門医(CCT)、アメリカ心臓病学会特別正会員(FACC)。 2009年第10回国際統合医学会会頭。
2011 年国際オーソモレキュラー医学会殿堂入り(カナダ)、2012年～2023年国際オーソモレキュラー医学会会長(カナダ)。
2014 年アントワーヌ・ベシャン賞(フランス)、パールメーカー賞(アメリカ)、世界神経療法会議最優秀アカデミー会員(エクアドル) を授与される。
2018 年国際オーソモレキュラー医学会第47 回東京大会会長、2019 年日本オーソモレキュラー医学会第1回会頭を務める。
2020 年Vitamin C for Covid (イギリス) 科学諮問委員、2021 年フィリピンオーソモレキュラー医学会名誉会員（フィリピン）、2024 年Guardians for Health and Freedom 代表。

書籍

『ビタミンC ががん細胞を殺す』（角川SSC）、『グルタチオン点滴でパーキンソン病を治す』(GB)
『つらくないがん治療: 高濃度ビタミンC 点滴療法』(GB)、『奇跡を起こす点滴でアンチエイジング』(主婦の友) など

【メ モ 欄】